

備前市事務事業評価表

事務事業名	塵芥収集事業（日生地区）		コード	01-01-14-08
			担当課・係	市民福祉課 環境衛生係
			担当者	原田 尚美
			電話	72-1104
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり		
	小項目(施策)	ごみ処理		

事業について	
目的 (何のために)	市内で排出される一般廃棄物を適正かつ効率的に収集する事により、生活環境の保全につなげる。
対象 (誰・何を対象に)	ごみの収集運搬を必要とする、日生地域の市民・市内事業者。
内容	ごみの種類ごとに収集日を定め、塵芥収集業務を外部委託し、担当地区のごみを収集する。

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)
ごみ収集量	2,753 t	2,490 t	
収集日数	207 日	207 日	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	61,601	国庫補助金等		直接事業費	61,489	国庫補助金等	
	人件費	3,015	委託費負担		人件費	3,065	委託費負担	
		市債				市債		
	合計	64,616	一般財源等	64,616	合計	64,554	一般財源等	64,554
					合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.35 人	0.35 人	
結果指標名	ごみ収集量	ごみ収集量	
結果指標量	2,753	2,490	
単位	t	t	
対前年比	-	90.45%	0.00%
活動にかかるコスト	64,616,000 円	64,554,000 円	
単位当たりコスト	23,471 円	25,925 円	
結果指標名			
結果指標量			
単位			
対前年比	-		
活動にかかるコスト			
単位当たりコスト			

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	一般廃棄物の適正かつ効率的に収集することで、快適な生活環境の保全		
成果指標名	t当りの収集コスト	式又は説明	事業費 / ごみ収集量(t)
	17年度	18年度	
成果指標量	23,471	25,925	
対前年比	-	110.46%	0.00%
到達目標値	収集委託料の削減	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成18年度事業)

事務事業の評価			
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 関係法令等：	妥当性評価<A~E> A
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	関係法令等に基づき、可燃ごみ・不燃ごみ・ペット・トレイ・紙類・びん・粗大ごみの6種類に分別し、細分化を実施している。
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> B
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	資源ごみの回収等によりさらなるごみの減量化・資源化を図っているが、収集品目の追加や分別変更による回収回数を増やせば、収集の効率の低下が予想される。
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> B	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	ごみの減量化が進み、ごみ回収量が低下すれば収集コストの軽減が期待できる。

平成19年度状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明 委託料の減額に向けて努力しているが現時点では難しい。
目標値	結果指標量 2490t	結果指標量	
	成果指標量 25925円/t		

総合評価	資源ごみ(古紙類・ペットボトル)の回収により、ごみの資源化を図っているが、さらに廃プラや乾電池などを追加することを検討している。実施するには、処理設備の整備をはじめ委託料の増額が懸念されるため、現時点での実施は難しい。	評価区分<A~E> B
------	---	-------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	---	--	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	資源ごみ回収品目の増加		家庭ごみの排出抑制および資源物のリサイクル
効率性	資源ごみ回収品目の増加に伴うごみ集積所の集約化		ごみ収集の時間短縮と安全性の確認
有効性	粗大ごみの有料化		地域間格差の是正